

## 文京区災害情報システム機能要件一覧

NO.	大分類	小分類	機能要件
1	システム全般 基本機能	提供・運用形態	クラウド形式での提供・運用ができること。
2		アカウント管理機能	アカウントごとにID及びパスワードを設定できること。
3		ログイン機能	ログイン画面を表示し、ID/PWを入力できること。ログインユーザーの部署に応じた機能権限及び編集権限を付与してシステムを起動すること。
4		モード切替機能	実災害時、訓練時などの利用シーンに応じて、モード（実災害・訓練）を切り替えられること。訓練モードでは、ログインユーザーごとに実災害時と同じ機能が利用できること。
5		地図機能	地図を背景として被害情報や避難所情報等の各種データの位置情報を登録できること。 地図及び地図を背景として登録した情報は資料として自由に印刷できること。
7	災害対策 本部 業務支援	避難勧告・避難指示情報の管理機能	避難勧告、避難指示、避難準備及び解除の状況を管理できること。
8		避難所管理機能	避難所の基本情報（名称、住所、収容可能人数等）を管理できること。また、発災時には、各避難所の開設状況や避難者数を管理できること。
9		支援（救援）物資管理機能	避難所等で必要としている支援物資等の要請、対応状況を管理できること。 物資集積所における救援物資の在庫状況を管理できること。
10		関連資料作成機能	本部会議資料及び広報資料を作成できること。
11		災害管理機能	地震災害や風水害などの各種自然災害のほか、テロや火山などのあらゆる災害に対応できること。また、手動で災害名を登録、変更できること。
12		災害選択機能	本システムを利用し、運用された災害（現在運用中の災害を含む）を選択し、災害時に入力された情報を閲覧、更新できること。
13		被害管理機能	災害ごとに火災や建物被害等の各種被害を管理できること。また、各被害の対応状況、被害者数等を管理できること。また、集約した情報を地図を背景として表示できること。
14		被害登録機能	関係各課が被害状況や対応状況を登録できること。また、被害情報には写真や映像を関連付けられること。
15		時系列表示機能	収集した被害やその対応状況の更新状況を時系列順に表示できること。また、任意に指定した被害種別や対応状況による絞り込みができること。
16		集計機能	被害種別や対応状況、被害件数、被害者数等を集計できること。また、その結果をグラフ等で視覚的に表現できること。
17		エクスポート機能	被害一覧や被害件数等の集計結果をエクセルやCSV形式の外部ファイルに保存できること。
18		被害情報映像関連	被害映像情報が災害対策本部に設置されるモニター等に表示されること。
19		避難行動要支援者支援	「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」を踏まえた、避難行動要支援者名簿を管理し、各種帳票等が出力ができるシステムとすること。（スタンドアローン形式）
20	災害対策本部との 連絡	情報連絡機能	災対各部及び防災関係機関の情報連絡ができること。また、連絡先をリストから選択できること。
21		災対各部及び防災関係機関の応答、対応状況の管理機能	連絡に対する各部の応答や対応状況を確認できること。
22		重要度、優先度のレベルに応じた連絡機能	連絡や指示内容に重要度や優先度を保持できること。また、重要度や優先度の高い事案を分かりやすく表現できること。
23		無料通信アプリによる情報収集	LINE等の無料通信アプリによる区民等からの情報提供及び管理ができる仕組みとすること。
24	外部システム・機器・サービスとの 連携	防災アプリ	本システムに付随して提案される防災ホームページとの連携を実現すること。
25		防災ホームページ	本システムに付随して提案される防災アプリとの連携を実現すること。
26		東京都DIS	東京都災害情報システムへ災害対策本部の状況、被害状況、避難所開設状況を報告できること。
27		情報収集関係	水防災監視システム、気象庁（気象情報について）、公共情報（鉄道、ライフライン等）について連携し、自動で情報が収集できる仕組みとすること。
28		情報発信関係	下記について連携を想定する。 なお、機能としては1つの入力画面に入力し、送信先を選択すれば一度で発信できる仕組みとする。 防災行政無線、緊急速報メール、SNS（Twitter、Facebook、Line）、「文の京」安心・防災メール、一斉情報伝達システム（令和2年度導入予定）
29	モバイル機器	スマートフォン、タブレットPC等の利用が可能なこと。	